大好きなお米のこと

熊倉小学校　五年

ぼくは、ご飯が大好きです。小柄な方だけれど、ご飯はたくさん食べられます。そんなお米好きのぼくに、ショックなことがありました。

国語で、「資料やグラフをもとに文章を書こう」という学習をしていた時です。ぼくは、資料を探すために。「子ども年鑑二〇二〇」という本を見ていました。すると、「一人が一年間に食べる米の量調べ」のデータがのっていました。そのグラフはどんどん右下がり。つまり一人が食べる米の量は、年々、減っているのです。どのぐらい減っているかというと、二〇一八年では、五十三・八キログラム、それは、五十年前の半分の量になってしまっています。日本人はお米を食べなくなっていると聞いたことはありましたが、その事実を突きつけられてぼくは驚き、そして悲しくなりました。

ぼくは、今年農業科で、自分たちが育てたお米のことを考えました。熊倉小では、米作りの担当は五年生と決まっています。ぼくは、去年から米作りを楽しみにしていました。休校時期があけてから種もみをまき、五月に田植え、そのときは三、四本だった苗は、どんどん大きく太くなり、十月にはたくさんの穂が実りました。今年は、新型コロナウイルス感染防止のために、収穫したお米をみんなで食べる機会がありませんでした。そのため、五年生全員で、袋に分けたり、メッセージをシールにしてはったりして、全校生とお世話になった地域の方々に配りました。みんな、とても喜んでくれました。ぼくも、家で食べた時の新米の味は忘れられません。

今までは、ただ、好きで食べていたけれど、自分の思いが加わると、おいしさが増すことが実感できました。この経験を思い出し、どうしたら、もっとお米を食べてもらえるのか考えました。お米はただいつもあるということではなく、人々の思いや苦労や喜びが集まったものだと知ってもらえればいいと思います。ぼくは、この作文をスタートに、農業科で学んだ思いを発信していきます。